

(21) 幼稚園

1) 施設概要

施設分類	大分類	教育施設	中分類	学校教育施設	小分類	幼稚園	
設置目的・機能	学校教育法第22条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的としています。						
施設名		運営形態	併設状況	施設名		指定管理	併設状況
1	曳舟幼稚園	直営	-	5	柳島幼稚園	直営	○
2	菊川幼稚園	直営	○	6	立花幼稚園	直営	-
3	第三寺島幼稚園	直営	○	7	緑幼稚園	直営	○
4	八広幼稚園	直営	-				

2) 総論

① 建物状況

○すべての施設が所要の耐震性能を満たしているものの、「柳島幼稚園」と「立花幼稚園」は築後30年以上が経過しています。

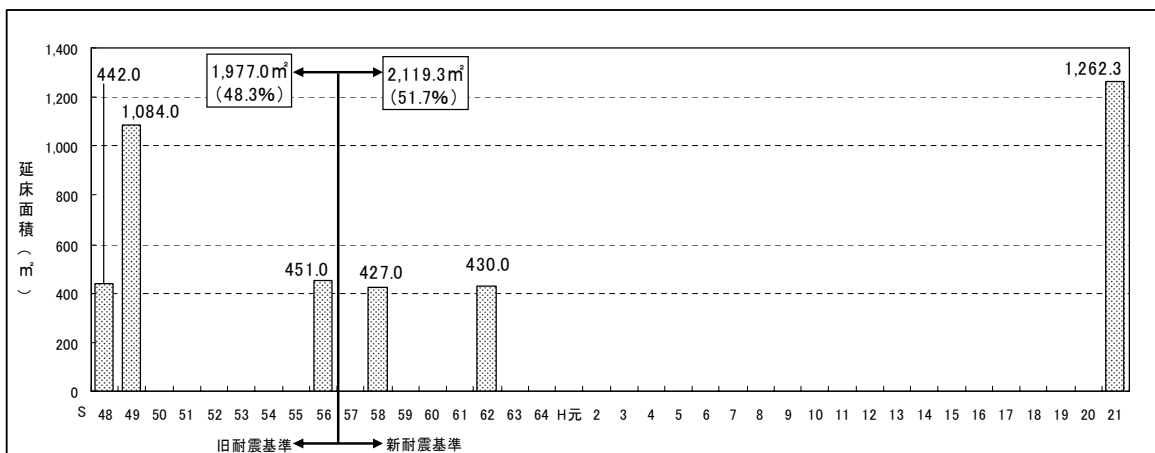


図 竣工年度別の延床面積

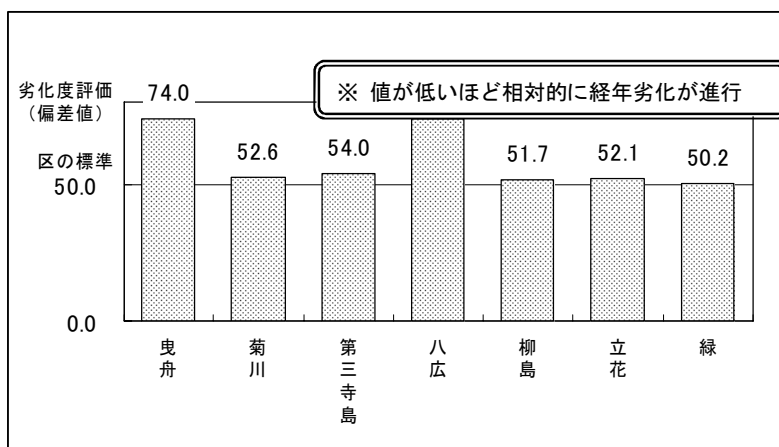


図 劣化度評価の結果

② 利用状況

- 児童数は、定員¹⁰の合計 490 人に対し、平成 20 年が 449 人、平成 21 年が 409 人、平成 22 年
が 370 人と定員割れの状況が続いています。
- 施設別にみると、「曳舟幼稚園」「緑幼稚園」を除く 4 施設では、2 年連続で児童数が前年度
を下回っている状況にあります。また、定員に対する入園児童数の 3 ヶ年平均の充足率は、
全体では 83.5%、施設別では平成 22 年における児童数が 40 人台と相対的に少ない「菊川幼
稚園」「立花幼稚園」で 80% 台を割り込んでいます。
- 一方、区内にある 8 つの私立幼稚園では、合計定員数が 1,103 人であり、児童数は伸び悩ん
でいるものの、定員充足率は 140% 前後と非常に高水準となっています。

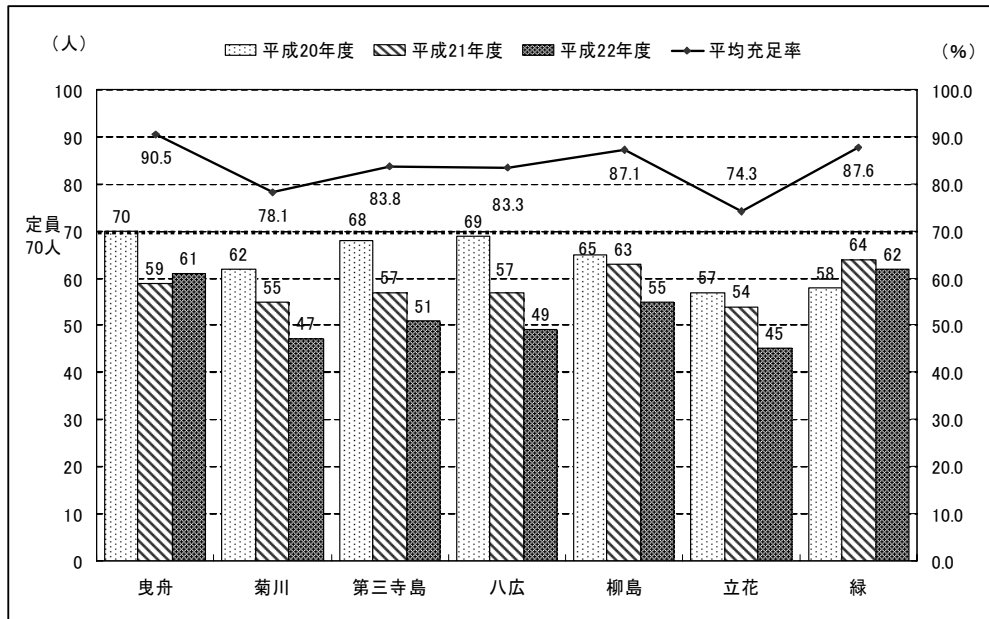


図 児童数（各年 5 月 1 日現在）の推移及び 3 ヶ年平均の定員充足率

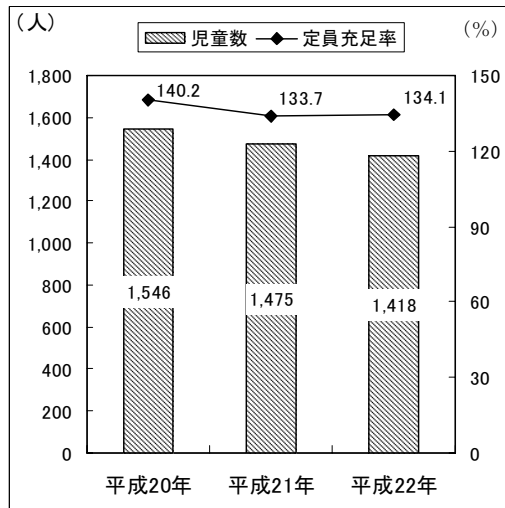


図 私立幼稚園の児童数及び定員充足率

¹⁰ 幼稚園の定員は、7施設ともに 70 人の合計 490 人。

< 将来の施設需要 >

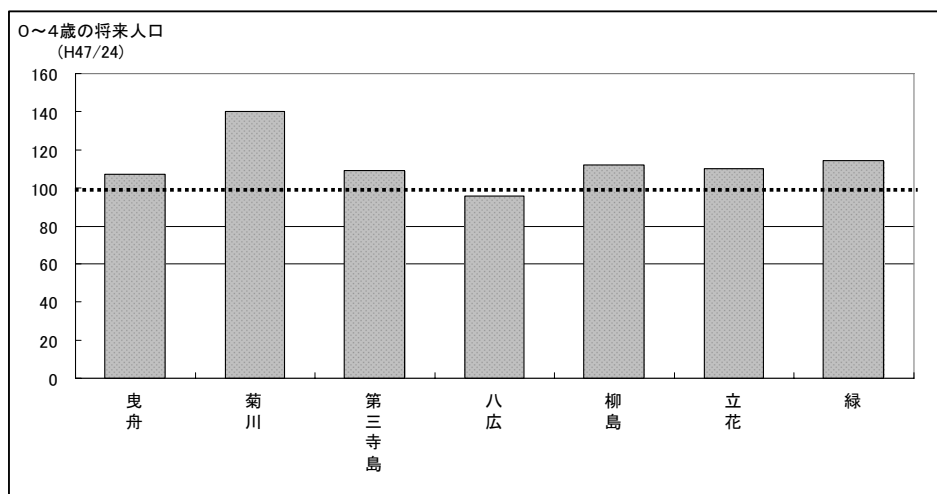


図 施設を中心とする半径 500m の区域における平成 47 年の 0～4 歳推計人口（平成 24 年=100）
注）施設を中心とする半径 500m の区域が含まれる町の人口数から算出

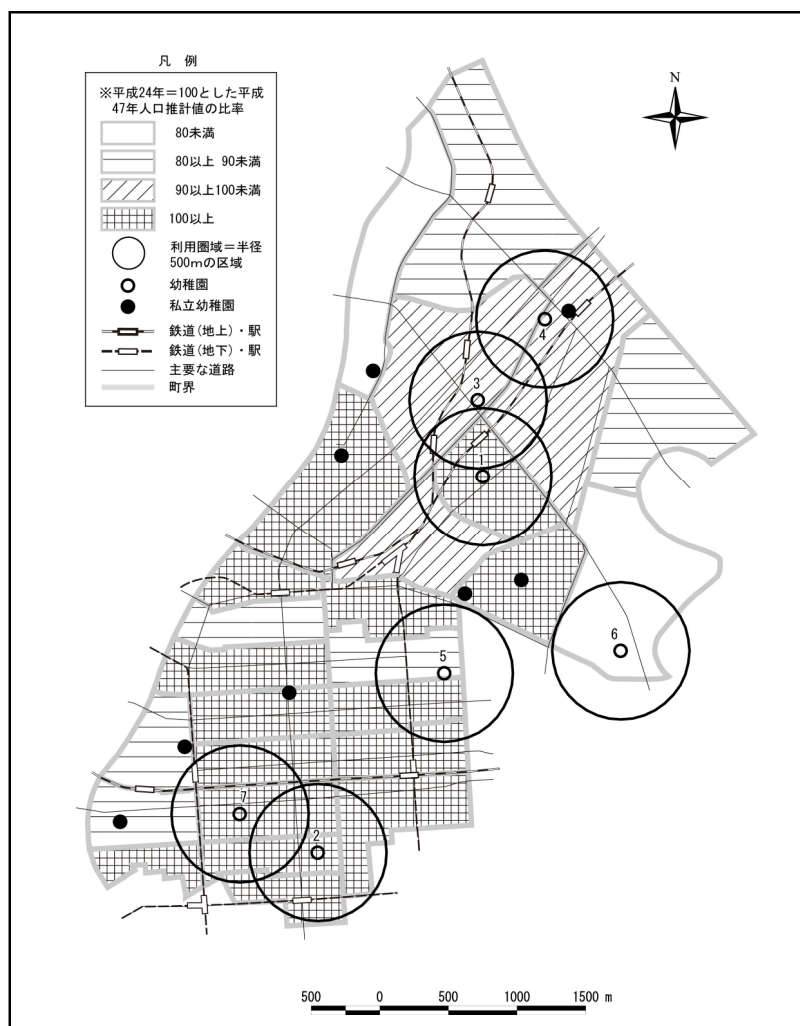


図 平成 47 年の 0～4 歳推計人口（平成 24 年=100）と半径 500m の区域

③ 施設の配置状況

- 区立幼稚園は全区で7園あり、北部に4園、南部に3園立地しています。
- 上記に加えて、区内には区立幼稚園以外に私立幼稚園が8園立地しています。

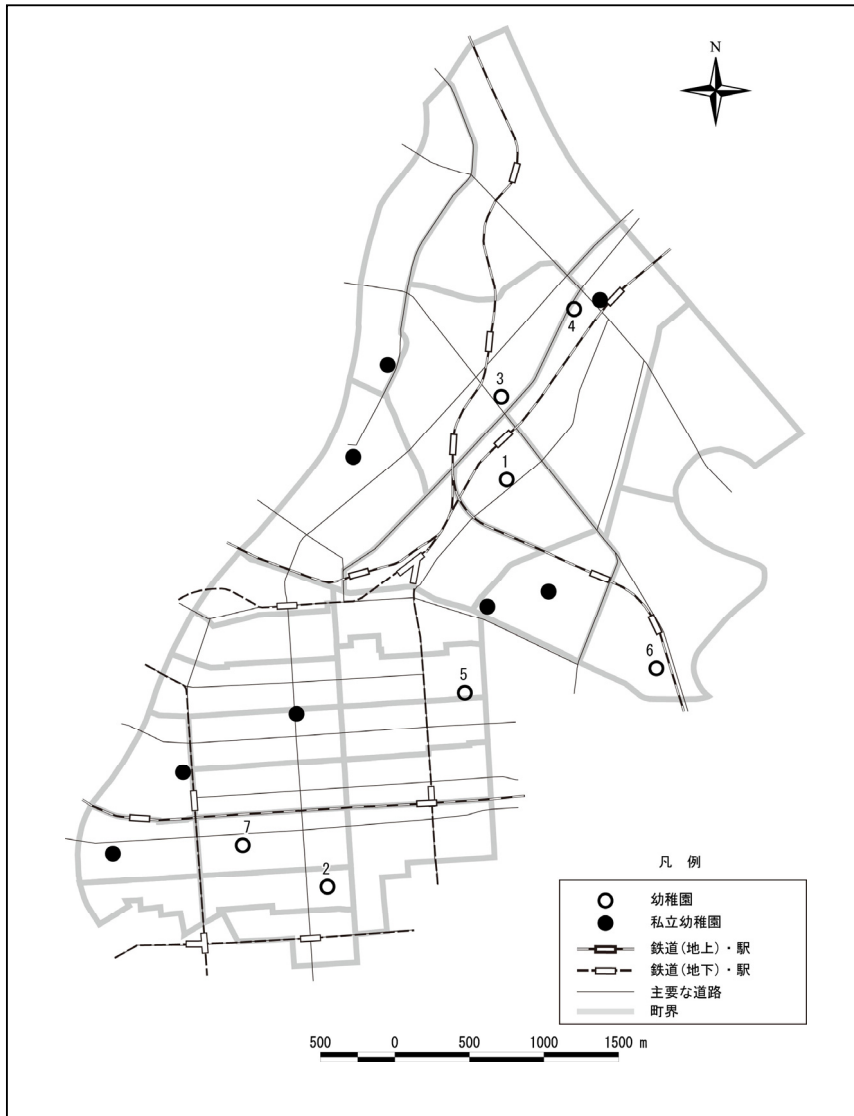


図 幼稚園の配置状況

<施設の重複状況>

施設名		重複施設数	施設名		重複施設数
1	曳舟幼稚園	1	5	柳島幼稚園	-
2	菊川幼稚園	1	6	立花幼稚園	-
3	第三寺島幼稚園	2	7	緑幼稚園	1
4	八広幼稚園	1			

表 施設を中心とする半径 500m の区域における重複施設数

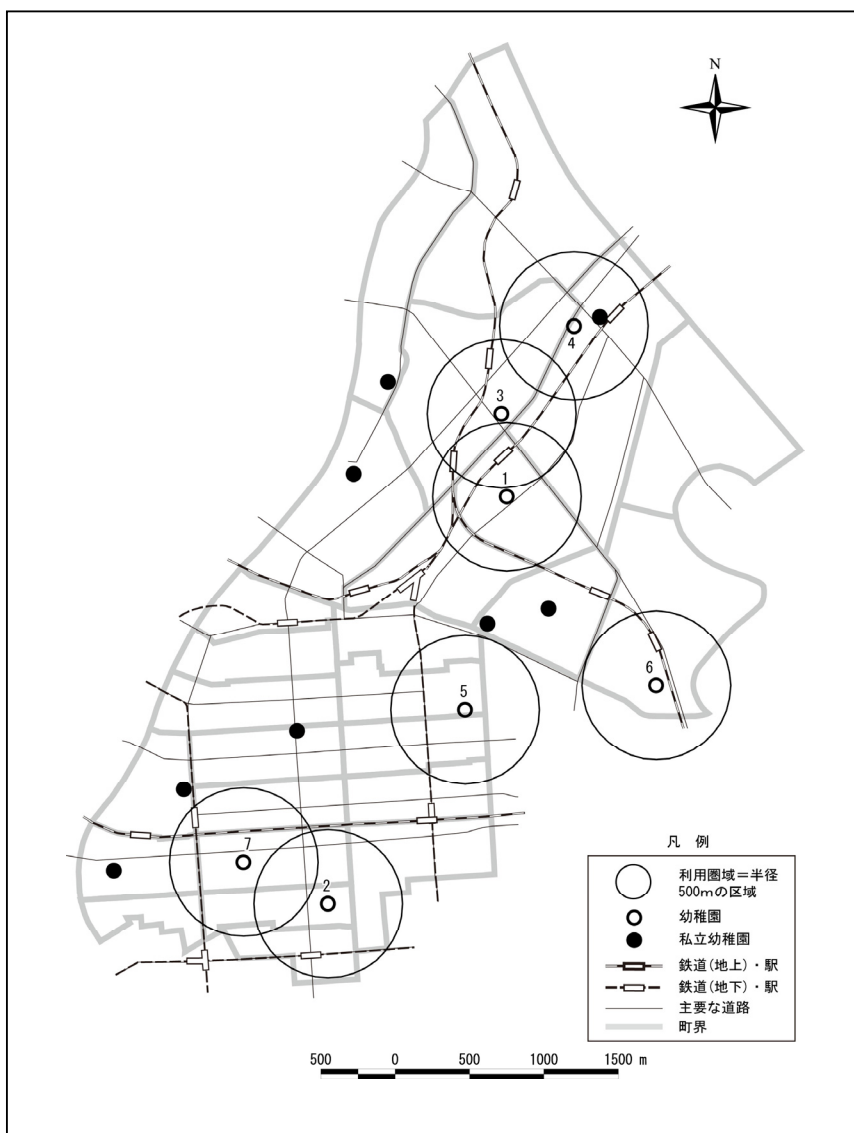


図 施設を中心とする半径 500m の区域における重複状況

④ 維持管理・運営にかかる経費の状況

○維持管理費は総額約 3,300 万円であり、このうち管理委託費が約 1,500 万円で全体の 44.8%を占めています。

○運営費は総額約 2億 1,800 万円であり、このうち正規職員の人件費が約 1億 9,300 万円で全体の 88.2%を占めています。

○入園者 1人あたりの総経費をみると、最も高いのは「立花幼稚園」の約 75 万円、最も低いのは「緑幼稚園」の約 53 万円と約 18 万円の開きがあり、児童数の少ない施設ほど高くなる傾向があります。

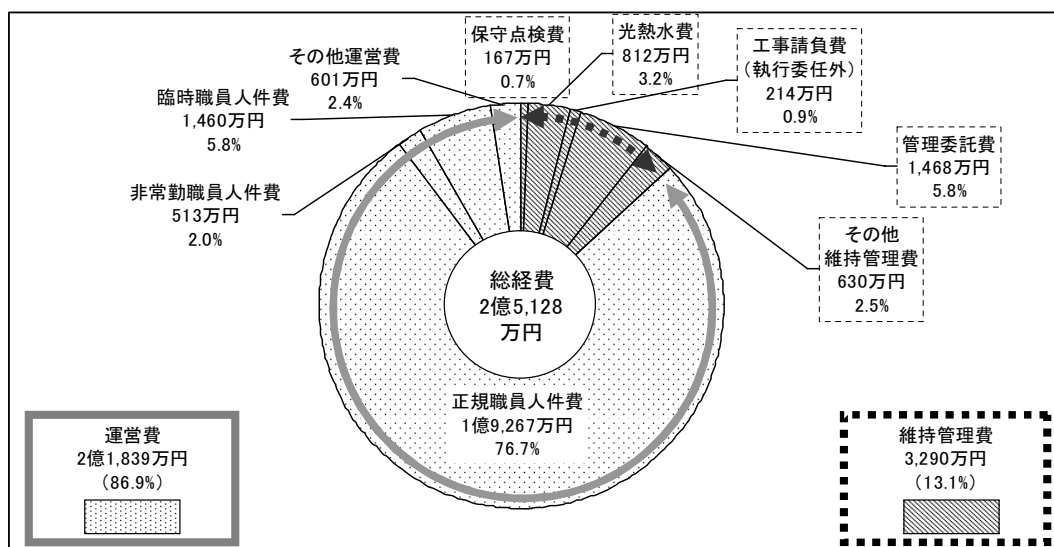


図 総経費の構成

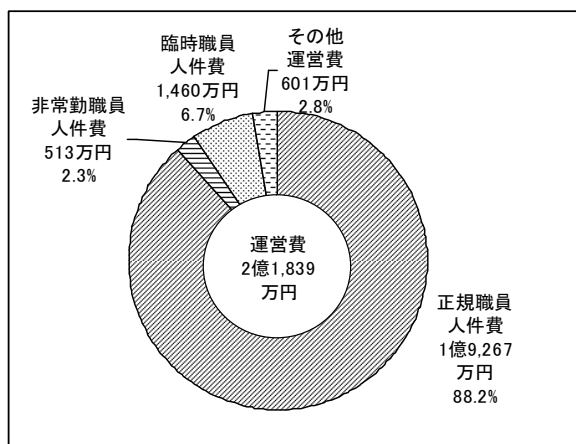


図 運営費の構成

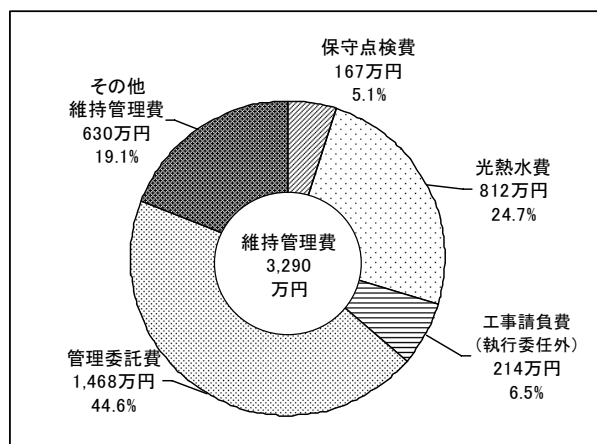


図 維持管理費の構成

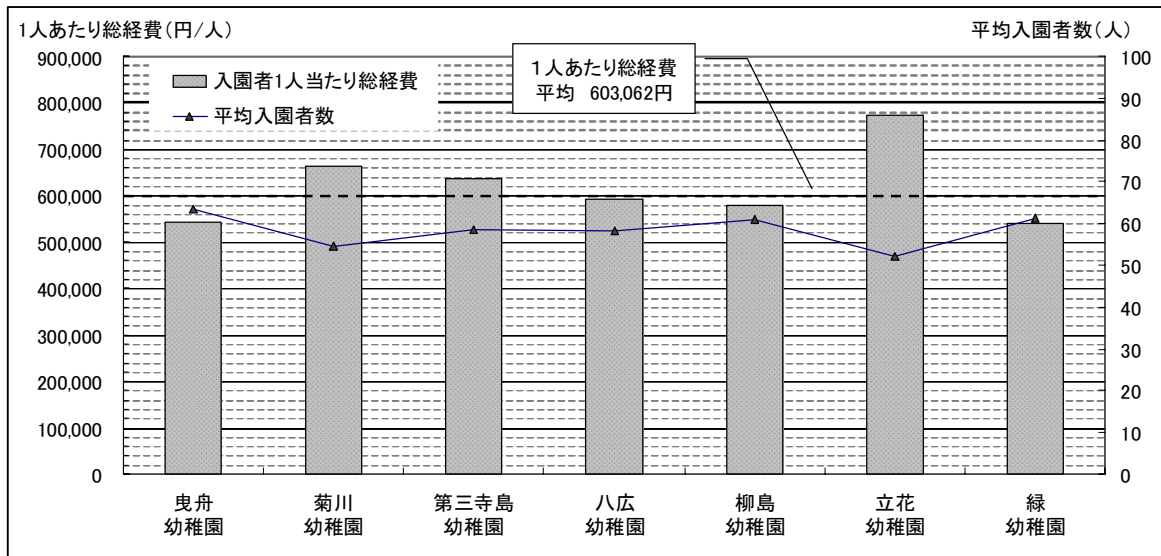


図 入園者1人あたり総経費

3) 分析・評価の方法

「幼稚園」の分析・評価の指標

	評価項目	評価指標	評価の内容
幼稚園の分析・評価の指標	＜建物性能＞		
	経過年数 (20点満点)	経過年数	20点:10年未満 15点:10年以上20年未満 10点:20年以上 30年未満 5点:30年以上
	劣化の度合い (20点満点)	劣化度(区全体で みた偏差値)	20点:55以上 15点:50以上55未満 10点:45以上50未満 5点:45未満
	所要の耐震性能 (10点満点)	所要の耐震性能	10点:有り 5点:有り(改修) 0点:無し
	評価ランク (50点満点)	【A】評価点合計40点(50点×80%)以上 【B】30点(50点×60%)以上40点未満 【C】20点(50点×40%)以上30点未満 【D】20点未満	
	＜施設機能＞		
	施設の需要 (60点満点)	児童数の対前年度 比増減率	20点:2年連続増 10点:減⇒増、増⇒減 5点:2年連続減
		定員の充足率	20点:100%以上 10点:90%以上100%未満 5点:80%以上90%未満 0点:80%未満
		町別の将来人口	施設を中心とする半径500mの区域が含まれる町の平成24年の 0～4歳人口(実測値)を100とした場合の平成47年における0～ 4歳人口(推計値) 20点:100以上 10点:90以上100未満 5点:80以上90未満 0点:80未満
	施設の配置 (30点満点)	施設を中心とする 半径500mの区域 における重複施設 数	30点:なし 15点:1施設 5点:2施設 0点:3施設以上
経費の多寡 (30点満点)	入園者1人あたりの 総経費	本カテゴリーにおける平均額との比較 30点:▲10%以上 15点:▲10%未満0%以内 5点:0%超+10%以内 0点:+10%超 ※平均額には、最大値と最小値を除いた値を使用	
評価ランク (120点満点)	【a】評価点合計96点(120点×80%)以上 【b】72点(120点×60%)以上96点未満 【c】48点(120点×40%)以上72点未満 【d】48点未満		
評価区分			
区分1	区分2	区分3	区分4
「建物性能」・「施設機能」とも に評価が低く、建物や機能を含 め今後の統合、複合化、整理(廃 止)等について検討を要する施 設	「建物性能」の評価が低く、他 の建物への移転や他施設との複 合化等により、建物性能の向上 について重点的に検討を要する 施設	「施設機能」の評価が低く、運 営形態の見直しやコストの改 善、他施設との複合化等により、 施設機能の向上について重点的 に検討を要する施設	適時適切に建物の保全を行い ながら、更なる施設サービスの 向上を図っていく施設。必要に 応じて区分1～3に分類され た施設とともに一体的な見直 しを行う

4) 分析・評価結果一覧

施設名	＜建物性能＞					＜施設機能＞					評価結果
	経過年数 (20)	劣化度 (20)	耐震性 (10)	合計 (50)	評価ランク	施設需要 (60)	施設配置 (30)	経費の多寡 (30)	合計 (120)	評価ランク	
1 曳舟幼稚園	20	20	10	50	A	40	15	30	85	b	区分4
2 菊川幼稚園	10	15	10	35	B	25	15	0	40	d	区分3
3 第三寺島幼稚園	5	15	5	25	C	30	5	5	40	d	区分1
4 八広幼稚園	20	20	10	50	A	20	15	15	50	c	区分3
5 柳島幼稚園	5	15	10	30	B	30	30	15	75	b	区分4
6 立花幼稚園	5	15	10	30	B	25	30	0	55	c	区分3
7 緑幼稚園	10	15	10	35	B	35	15	30	80	b	区分4

【施設機能 (120満点)】	【a】 96点以上	区分2		区分4	
	【b】 72点以上 96点未満			5 柳島幼稚園 7 緑幼稚園	1 曳舟幼稚園
	【c】 48点以上 72点未満	区分1		区分3	
	【d】 48点未満		3 第三寺島幼稚園	2 菊川幼稚園	
		【D】20点未満	【C】20点以上30点未満	【B】30点以上40点未満	【A】40点以上
【建物性能(50満点)】					

検討の方向性（案）

○いずれの区立幼稚園も児童数が減少傾向にあり定員を満たしていないことから、将来需要等も踏まえ、区立幼稚園の適正配置について検討する必要があります。

(22) 小学校

1) 施設概要

施設分類	大分類	教育施設	中分類	学校教育施設	小分類	小学校
設置目的・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法第 29 条に基づき、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的としています。 ・小学校は、地震災害で自宅が倒壊したり、火災にあつて自宅に戻れない場合、一時的な生活の場所となる「避難所」に指定されているほか、学校開放等を通じ区民に身近な地域コミュニティ形成の拠点としての役割を担っています。 					
施設名	併設状況	施設名	併設状況	施設名	併設状況	
1 曳舟小学校	-	10 小梅小学校	-	19 二葉小学校	-	
2 押上小学校	○	11 第一寺島小学校	○	20 梅若小学校	○	
3 横川小学校	-	12 第二寺島小学校	○	21 八広小学校	-	
4 外手小学校	-	13 第三寺島小学校	○	22 柳島小学校	○	
5 菊川小学校	○	14 第三吾孺小学校	○	23 立花吾孺の森小学校	-	
6 業平小学校	○	15 第四吾孺小学校	-	24 両国小学校	-	
7 錦糸小学校	-	16 中川小学校	-	25 緑小学校	○	
8 隅田小学校	○	17 中和小学校	○			
9 言問小学校	○	18 東吾孺小学校	-			

2) 総論

① 建物状況

- いずれの施設も所要の耐震性能を満たしていますが、築後30年以上経過した施設は40あり、劣化度評価に関する偏差値については、40台前半の建物が3つあります。
- 竣工年度別の延床面積を見ると、昭和56年以前に竣工し築後30年以上が経過した施設は全体の7割強を占めています。これらの中には、昭和11年（1936年）竣工の「言問小学校」や同31年（1956年）竣工の「第四吾嬬小学校」など、築後半世紀以上が経過した施設が含まれています。

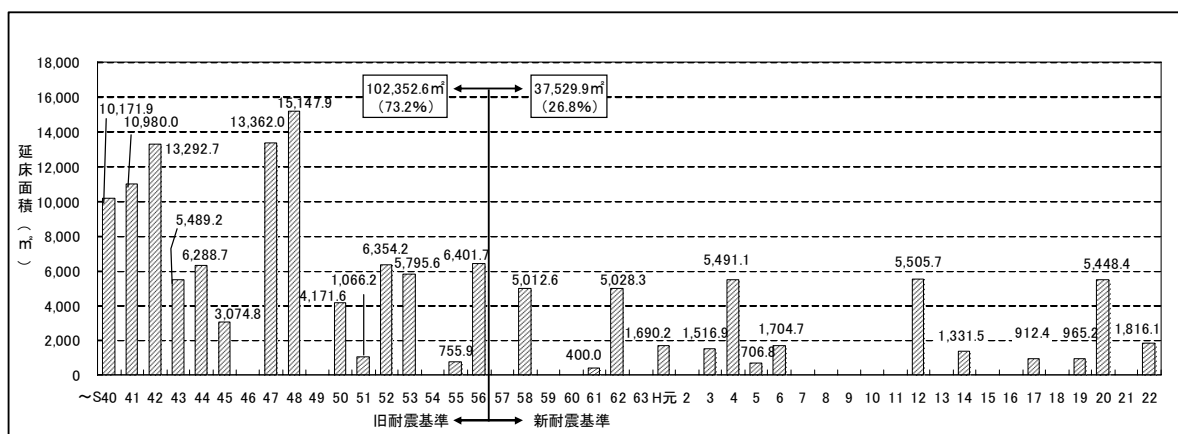


図 竣工年度別の延床面積

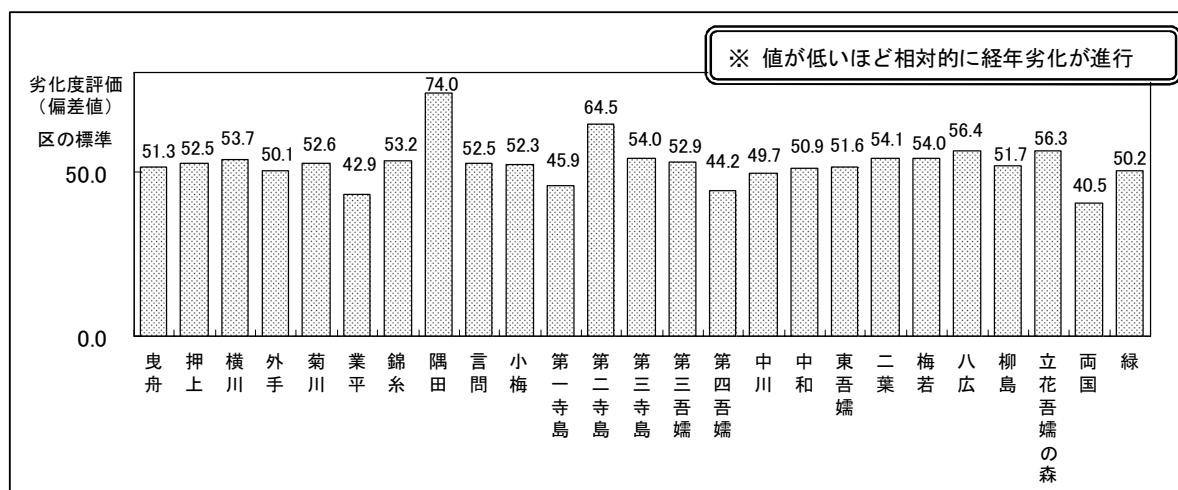


図 劣化度評価の結果

注) 各小学校における主たる校舎のみ

② 利用状況

- 平成 20 年以降の児童数の推移をみると、「中和小学校」と「緑小学校」では増加、「業平小学校」「小梅小学校」「両国小学校」では減少する傾向にあり、区南部の小学校で増減が目立つ状況にあります。
- 平成 24 年における 1 校あたりの学級数は、12～18 学級が 17 校、7～11 学級が 5 校、6 学級以下が 3 校であり、区が適正規模¹¹としている原則 12～18 学級の学校が全体の約 7 割を占めている一方、これを下回る学校も約 3 割あります。
- 1 学級あたりの児童数は、区全体では 29 人となっています。学校別では、最も多い学校が 34 人であるのに対し、最も少ない学校は 23 人と 9 人の差があります。

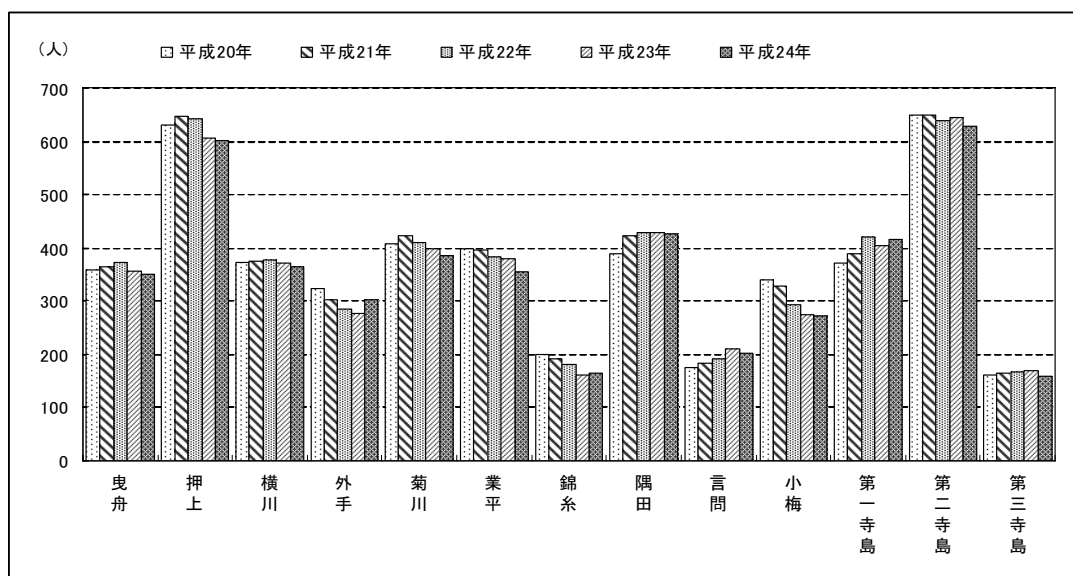


図 児童数の推移 (1 / 2)

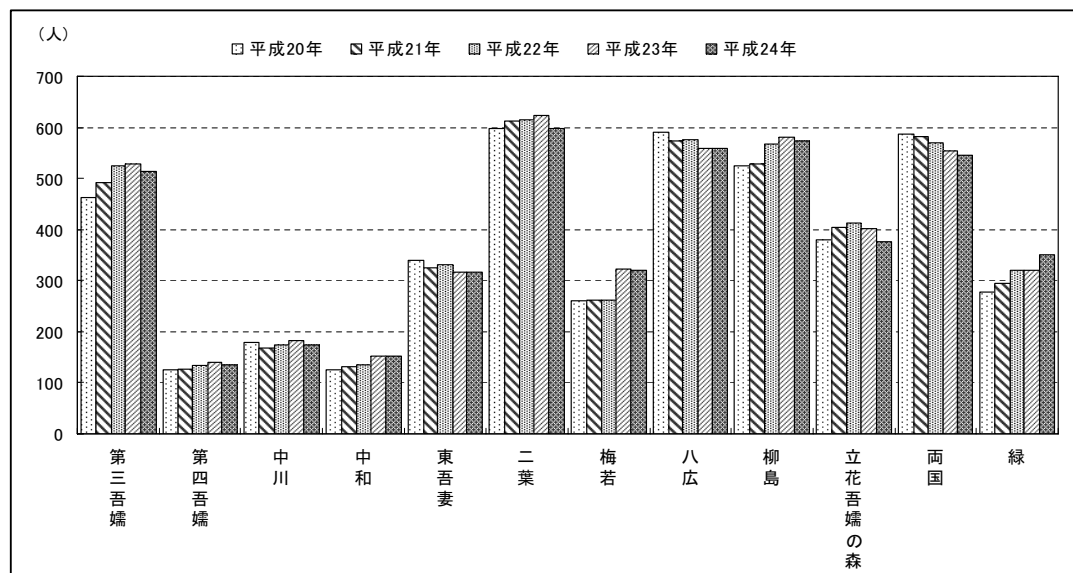


図 児童数の推移 (2 / 2)

¹¹ 学校教育法施行規則第 41 条において、小学校の学校規模は、「12 学級～18 学級以下を標準とする」とされ、中学校についても同規則第 79 条において、小学校の規則を準用するとされている。

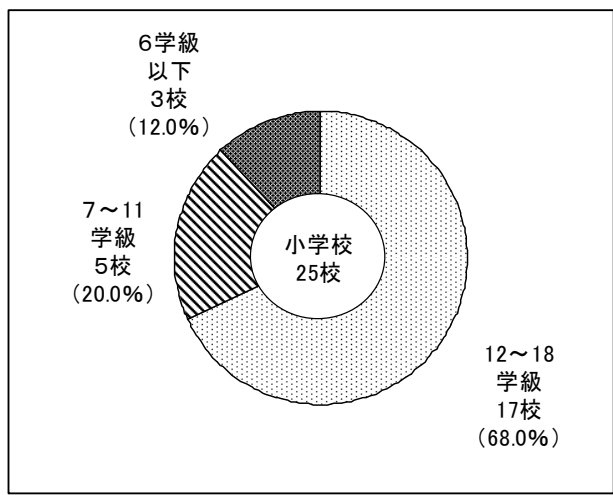


図 学級数別の学校数
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

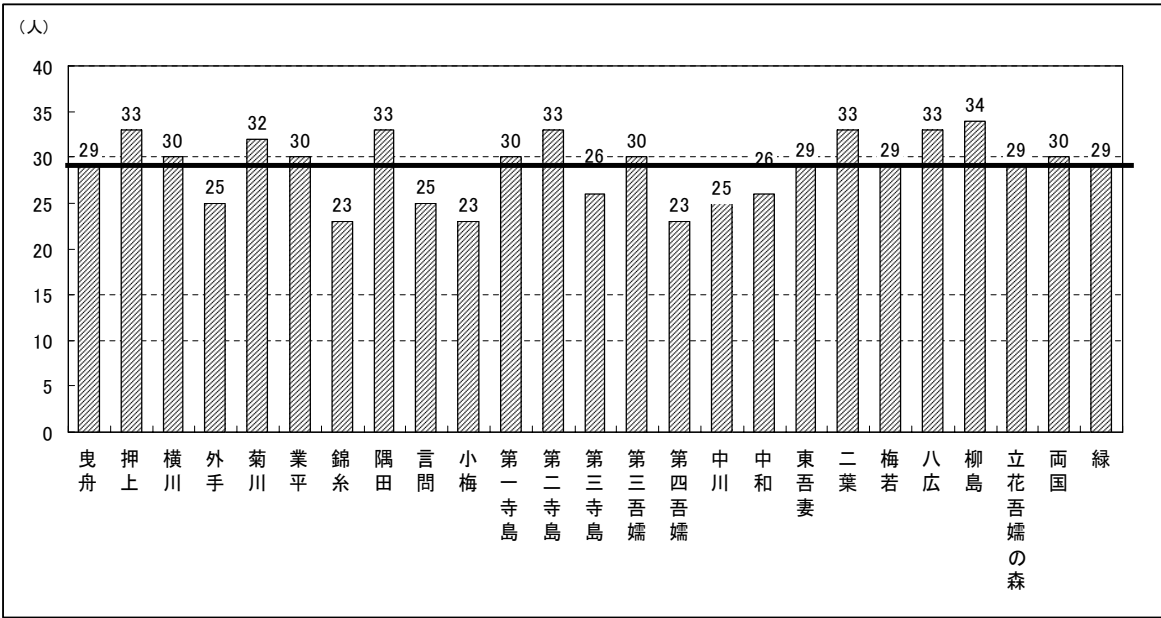


図 1 学級あたりの児童数 (平成 24 年 5 月 1 日現在)
注) 図中の実線は区全体の平均 (29 人)

<将来の施設需要>

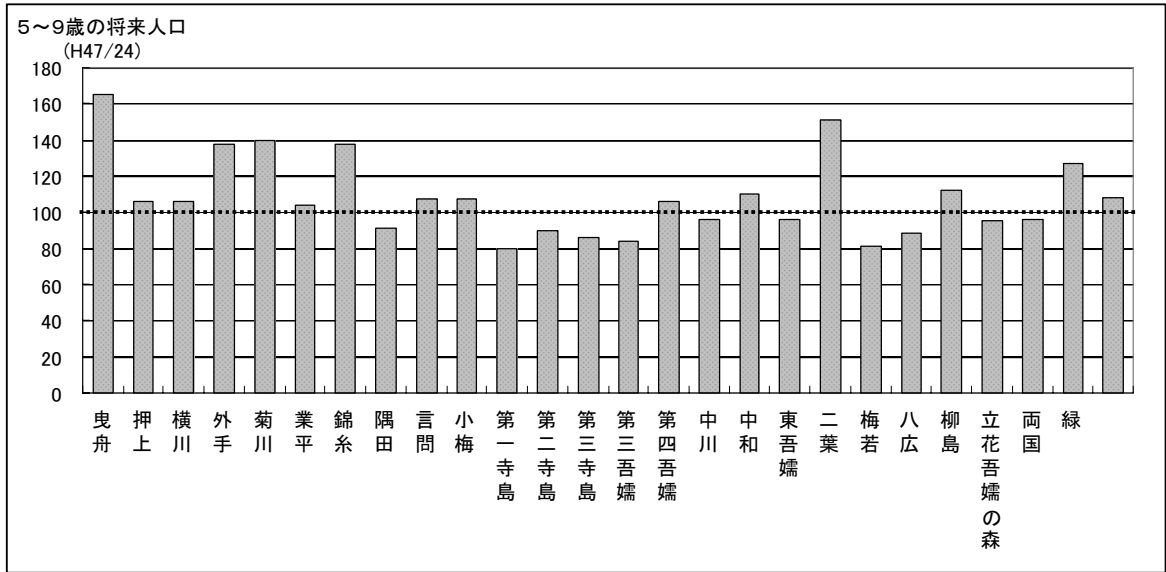


図 施設を中心とする半径 500mの区域における平成 47 年の 5～9 歳推計人口 (平成 24 年=100)
注) 区域 (半径 500m以内) が含まれる町の人口数から算出

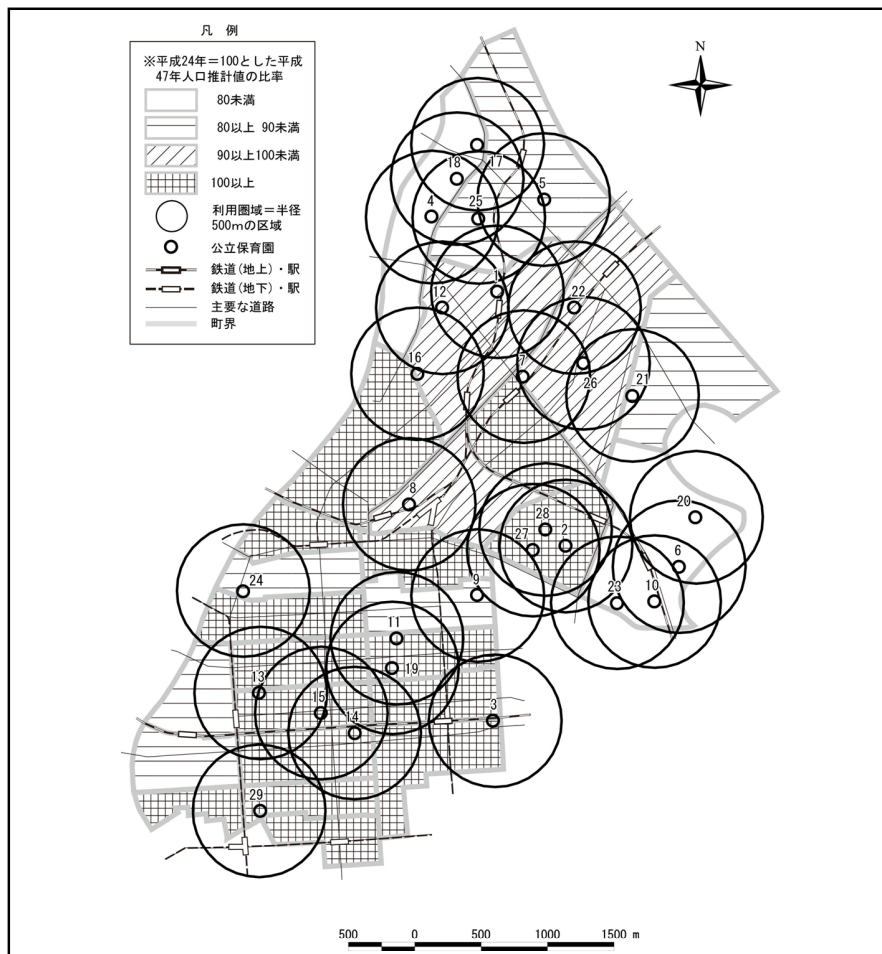


図 平成 47 年の 5～9 歳推計人口 (平成 24 年=100) と半径 500mの区域

③ 施設の配置状況

○区内全域にわたって 25 校が立地しています。区では、魅力ある教育活動の実現と開かれた学校づくりを目指し、平成 15 年度（2003 年度）から学校選択制度を導入しており、現住所に基づき定められた通学区域外の小学校へ入学することが可能となっています。

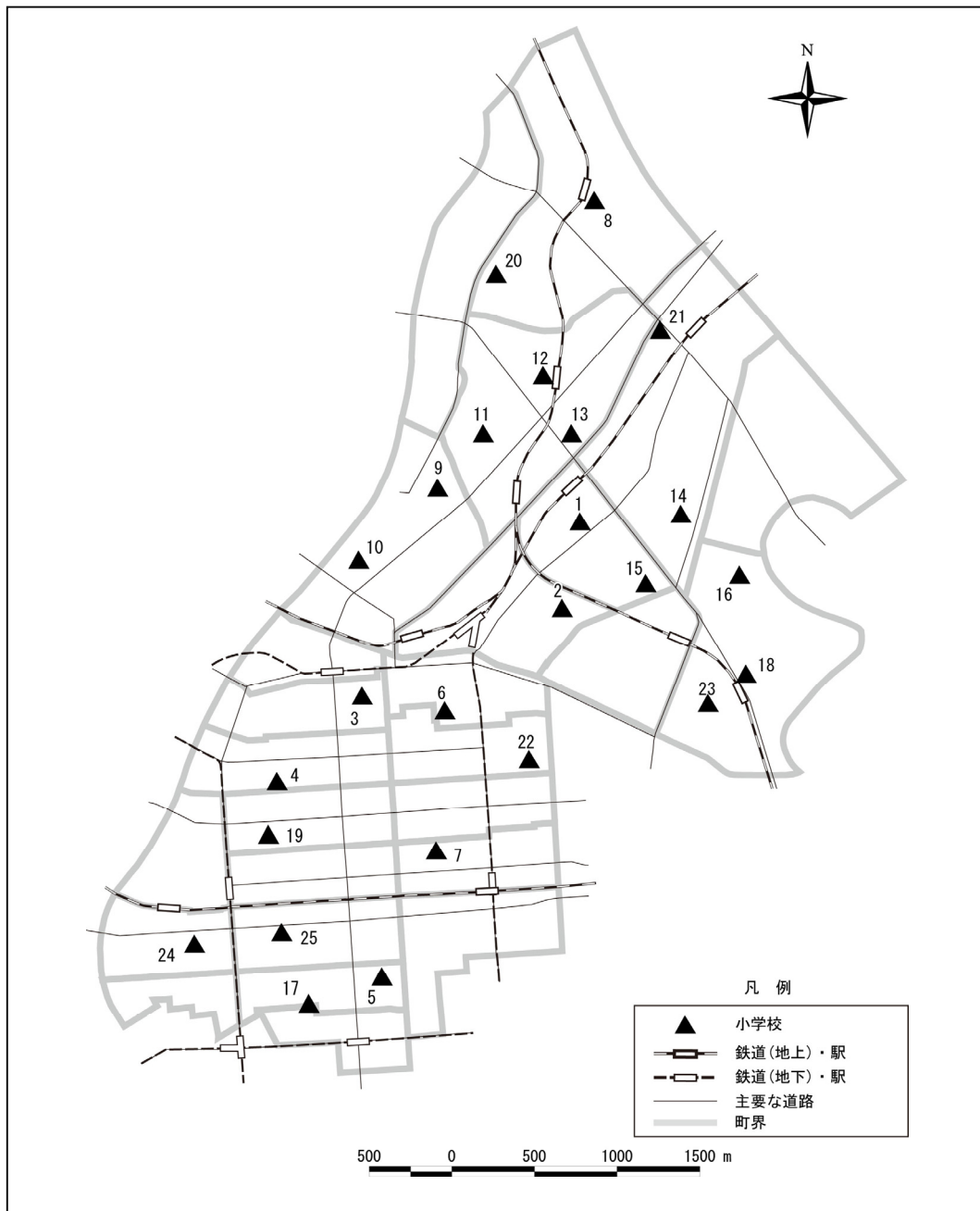


図 小学校的配置状況

④ 維持管理・運営にかかる経費の状況

- 小学校の維持管理費は総額約7億2,800万円であり、光熱水費及び管理委託費の合計で全体の61.3%を占めています。
- 施設別にみると、維持管理費の総額ベースでは「曳舟小学校」が約5,700万円で突出しており、以下、「八広小学校」の約4,600万円、「第二寺島小学校」の約4,200万円の順となっています。
- ㎡あたりでは、「曳舟小学校」が約11,000円で最も高くなっており、その理由は、学校管理業務委託を平成20年度から導入しているほか、国や民間に対して土地の賃借料を支払っていることによるものです。

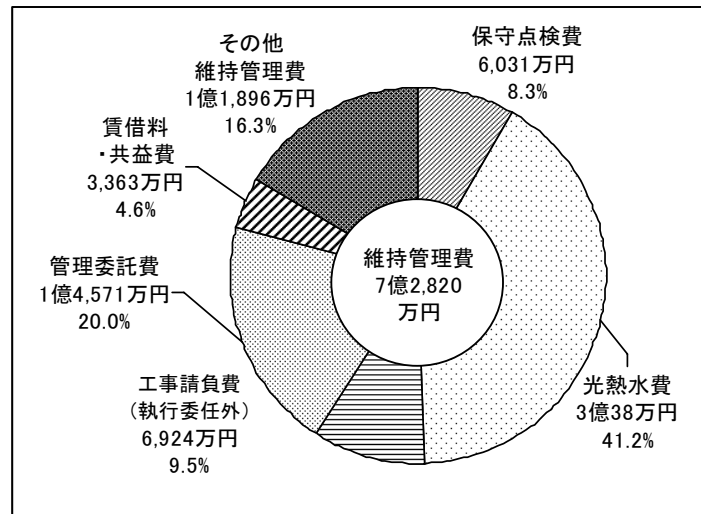


図 維持管理費（総経費）の構成

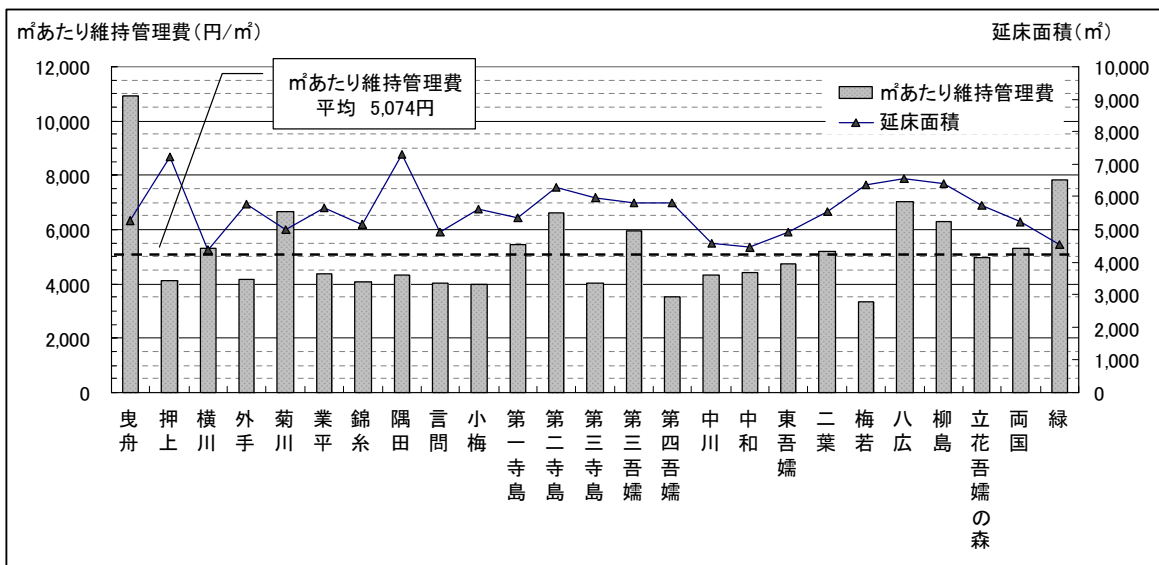


図 ㎡あたり維持管理費

3) 分析・評価の方法

「小学校」の分析・評価の指標

	評価項目	評価指標	評価の内容
小学校の分析・評価の指標	＜建物性能＞		
	※小学校は、同一施設内に校舎や屋内運動場、プールといった複数の建物が設置されており、建物により竣工年度や劣化度が異なります。このため、「経過年数」「劣化の度合い」は、延床面積が最も大きい主たる校舎を対象に分析・評価を行います。		
	経過年数 (20点満点)	経過年数	20点:10年未満 15点:10年以上20年未満 10点:20年以上 30年未満 5点:30年以上
	劣化の度合い (20点満点)	劣化度(区全体で みた偏差値)	20点:55以上 15点:50以上55未満 10点:45以上50未満 5点:45未満
	所要の耐震性能 (10点満点)	所要の耐震性能	10点:有り 5点:有り(改修) 0点:無し
	評価ランク (50点満点)	【A】評価点合計40点(50点×80%)以上 【B】30点(50点×60%)以上40点未満 【C】20点(50点×40%)以上30点未満 【D】20点未満	
	＜施設機能＞		
	施設の需要 (40点満点)	児童数の対前年度 比増減率	20点:2年連続増 10点:減⇒増、増⇒減 5点:2年連続減
		町別の将来人口	施設を中心とする半径500mの区域が含まれる町の平成24年の5～9歳人口(実測値)を100とした場合の平成47年における9～9歳人口(推計値) 20点:100以上 10点:90以上100未満 5点:80以上90未満 0点:80未満
	施設の配置	※分析・評価の対象外	
経費の多寡	※分析・評価の対象外		
評価ランク (40点満点)	【a】評価点合計32点(40点×80%)以上 【b】24点(40点×60%)以上32点未満 【c】16点(40点×40%)以上24点未満 【d】16点未満		
評価区分			
区分1	区分2	区分3	区分4
「建物性能」・「施設機能」ともに評価が低く、建物や機能を含め今後の統合、複合化、整理(廃止)等について検討を要する施設	「建物性能」の評価が低く、他の建物への移転や他施設との複合化等により、建物性能の向上について重点的に検討を要する施設	「施設機能」の評価が低く、運営形態の見直しやコストの改善、他施設との複合化等により、施設機能の向上について重点的に検討を要する施設	適時適切に建物の保全を行いながら、更なる施設サービスの向上を図っていく施設。必要に応じて区分1～3に分類された施設とともに一体的な見直しを行う

4) 分析・評価結果一覧

施設名	＜建物性能＞					＜施設機能＞					評価結果
	経過年数 (20)	劣化度 (20)	耐震性 (10)	合計 (50)	評価ランク	施設需要 (40)	施設配置 (-)	経費の多寡 (-)	合計 (40)	評価ランク	
1 曳舟小学校	5	15	10	30	B	40	-	-	40	a	区分4
2 押上小学校	15	15	10	40	A	30	-	-	30	b	区分4
3 横川小学校	5	15	10	30	B	40	-	-	40	a	区分4
4 外手小学校	5	15	10	30	B	25	-	-	25	b	区分4
5 菊川小学校	10	15	10	35	B	30	-	-	30	b	区分4
6 業平小学校	5	5	10	20	C	25	-	-	25	b	区分2
7 錦糸小学校	5	15	5	25	C	25	-	-	25	b	区分2
8 隅田小学校	20	20	10	50	A	30	-	-	30	b	区分4
9 言問小学校	5	15	5	25	C	40	-	-	40	a	区分2
10 小梅小学校	5	15	5	25	C	25	-	-	25	b	区分2
11 第一寺島小学校	5	10	5	20	C	25	-	-	25	b	区分2
12 第二寺島小学校	5	20	5	30	B	15	-	-	15	d	区分3
13 第三寺島小学校	5	15	5	25	C	25	-	-	25	b	区分2
14 第三吾嬬小学校	5	15	5	25	C	25	-	-	25	b	区分2
15 第四吾嬬小学校	5	5	5	15	D	40	-	-	40	a	区分2
16 中川小学校	5	10	10	25	C	20	-	-	20	c	区分1
17 中和小学校	5	15	5	25	C	40	-	-	40	a	区分2
18 東吾嬬小学校	5	15	5	25	C	20	-	-	20	c	区分1
19 二葉小学校	5	15	5	25	C	40	-	-	40	a	区分2
20 梅若小学校	5	15	5	25	C	25	-	-	25	b	区分2
21 八広小学校	5	20	10	35	B	15	-	-	15	d	区分3
22 柳島小学校	5	15	10	30	B	40	-	-	40	a	区分4
23 立花吾嬬の森小学校	10	20	5	35	B	30	-	-	30	b	区分4
24 両国小学校	5	5	5	15	D	15	-	-	15	d	区分1
25 緑小学校	10	15	10	35	B	40	-	-	40	a	区分4

【施設機能（40満点）】	【a】 32点以上	区分2		区分4		
		15 第四吾孺小学校	9 言問小学校 17 中和小学校 19 二葉小学校	1 曳舟小学校 3 横川小学校 22 柳島小学校 25 緑小学校		
	【b】 24点以上 32点未満		6 業平小学校 7 錦糸小学校 10 小梅小学校 11 第一寺島小学校 13 第三寺島小学校 14 第三吾孺小学校 20 梅若小学校	4 外手小学校 5 菊川小学校 23 立花吾孺の森小学校	2 押上小学校 8 隅田小学校	
	【c】 16点以上 24点未満		区分1	区分3		
【d】 16点未満	24 両国小学校		16 中川小学校 18 東吾孺小学校	12 第二寺島小学校 21 八広小学校		
		【D】20点未満	【C】20点以上30点未満	【B】30点以上40点未満	【A】40点以上	
【建物性能(50満点)】						
検討の方向性（案）						
<p>○今後の児童数の動向を踏まえ、学校の適正配置や空き教室の機能転換等による施設の有効活用に取り組む必要があります。</p> <p>○維持管理費の約4割を占める光熱水費の削減に取り組む必要があります。</p>						

(23) 中学校

1) 施設概要

施設分類	大分類	教育施設	中分類	学校教育施設	小分類	中学校
設置目的・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法第 45 条に基づき、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としています。 ・これらの施設は、小学校と同様に、区民にとって身近な公共施設であり、地域コミュニティの形成を促進する拠点としての役割を担っています。 					
施設名	併設状況	施設名	併設状況	施設名	併設状況	
1 錦系中学校	-	5 寺島中学校	○	9 墨田中学校	-	
2 吾孺第一中学校	-	6 鐘淵中学校(注)	-	10 本所中学校	-	
3 吾孺第二中学校	-	7 竪川中学校	-	11 立花中学校	-	
4 向島中学校(注)	-	8 文花中学校	-	12 両国中学校	-	

(注)「4 向島中学校」と「6 鐘淵中学校」は、平成 24 年度末をもって桜堤中学校として統合されたため、分析・評価の対象から除外する。

2) 総論

① 建物状況

- 「吾孀第一中学校」「吾孀第二中学校」「向島中学校」の校舎は、所要の耐震性能を満たしていない状況にあります。
- 「吾孀第一中学校」については、平成 26 年に「立花中学校」と統合し新校舎を設置するとともに、現吾孀第一中学校の位置に新校舎を改築する予定です。また、「吾孀第二中学校」についても、今後建替えが行われる予定です。
- 平成 25 年 4 月 1 日付で、「向島中学校 (No. 4)」と「鐘淵中学校 (No. 6)」が統合し、旧堤小学校跡地に「桜堤中学校」が開校しました。
- 昭和 56 年以前に竣工し築後 30 年以上経過した施設は 20 施設あり、延床面積ベースでは全体の 56.5%を占めています。

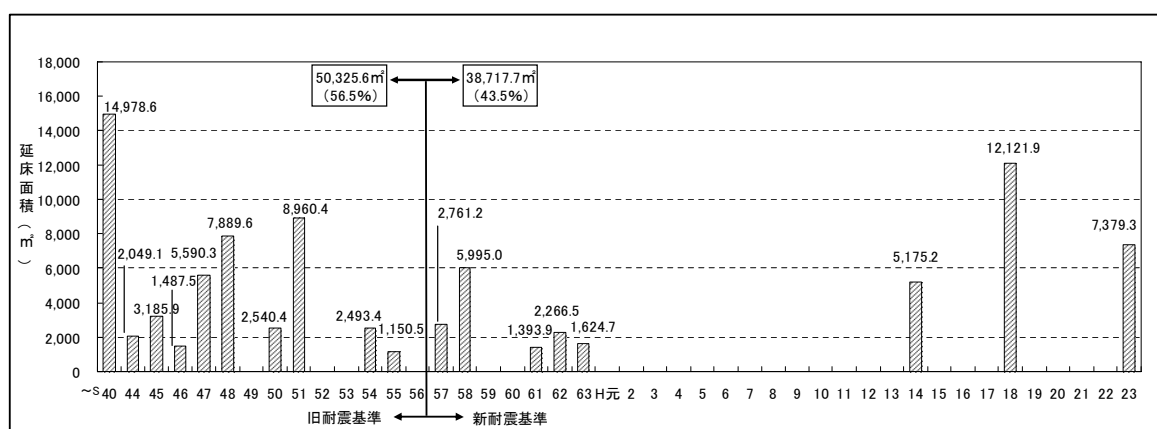


図 竣工年度別の延床面積

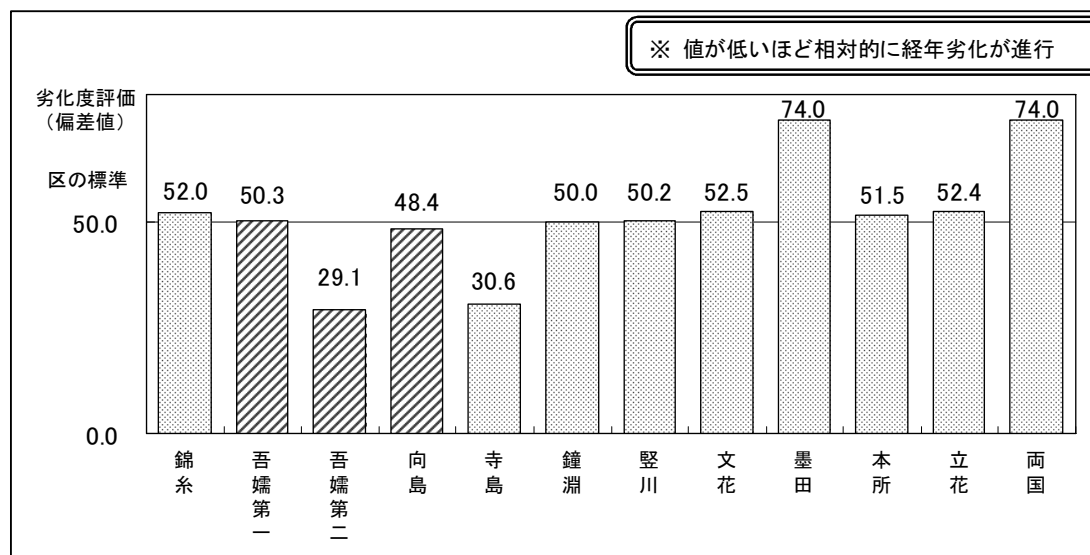


図 劣化度評価の結果

注) 各中学校における主たる校舎のみ。網かけは耐震性能を満たしていない施設

② 利用状況

- 平成20年以降の生徒数の推移をみると、全12校中、平成24年の児童数が平成20年に比べ増加しているのが7校、減少しているのが5校となっています。
- 平成24年における1校あたりの学級数として区が適正規模としている原則12～18学級に満たない学校が全体の66.7%を占めているのが特徴的といえます。
- 1学級あたりの生徒数は、区全体では33人となっています。学校別では、最も多い学校が37人であるのに対し、最も少ない学校は26人と11人の差があります。

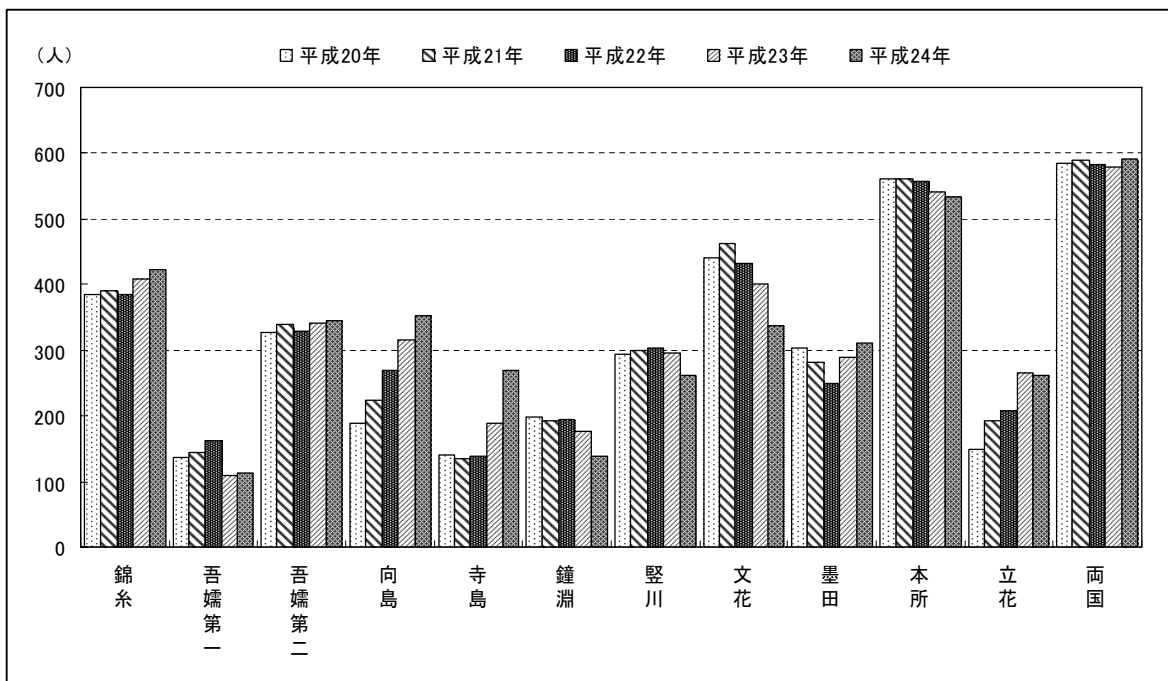


図 生徒数の推移

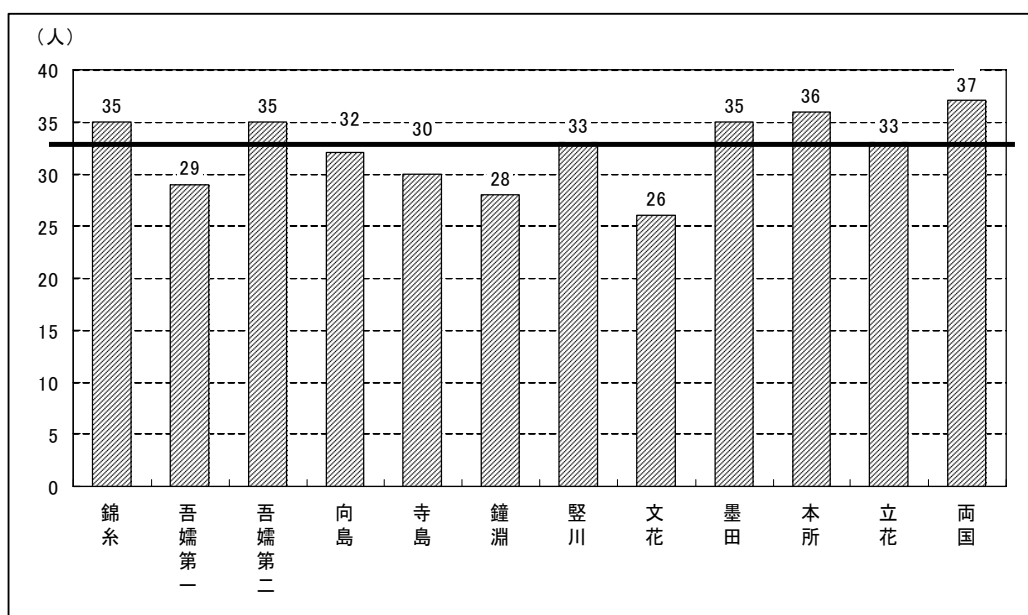


図 1学級あたりの生徒数 (平成24年5月1日現在)

注) 図中の実線は区全体の平均 (33人)

<将来の施設需要>

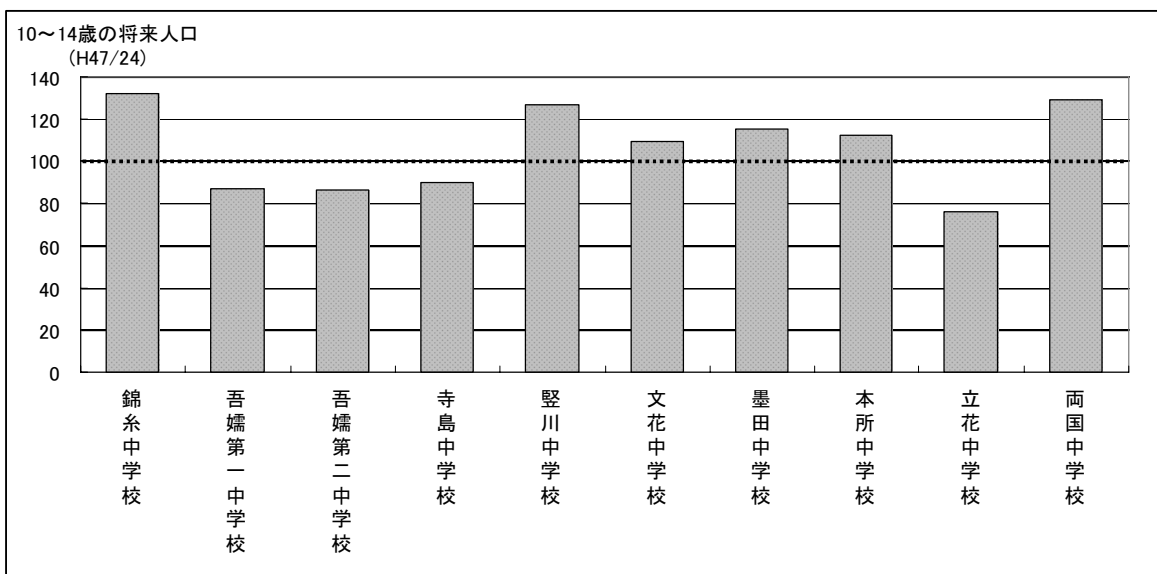


図 施設を中心とする半径 500mの区域における平成 47 年の 10～14 歳推計人口 (平成 24 年=100)
注)施設を中心とする半径 500mの区域が含まれる町の人口数から算出

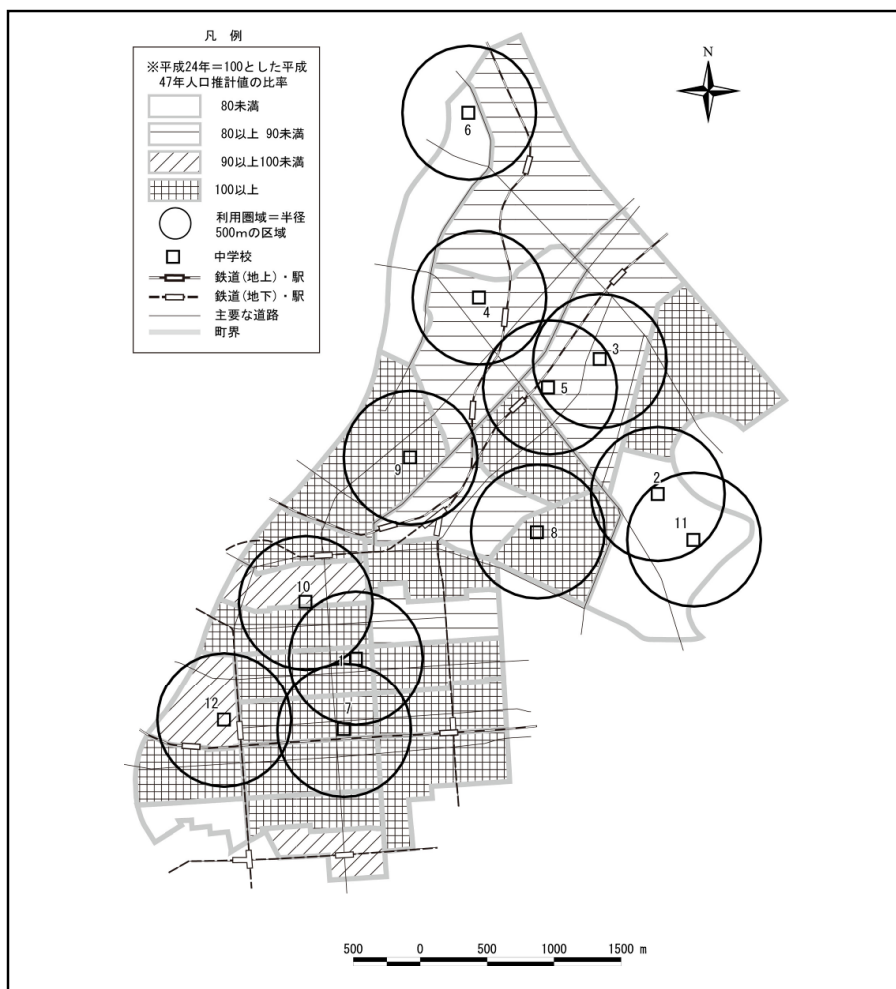


図 平成 47 年の 10～14 歳推計人口 (平成 24 年=100) と半径 500mの区域

③ 施設の配置状況

○小学校と同様に、平成 15 年度（2003 年度）から学校選択制度を導入しています。

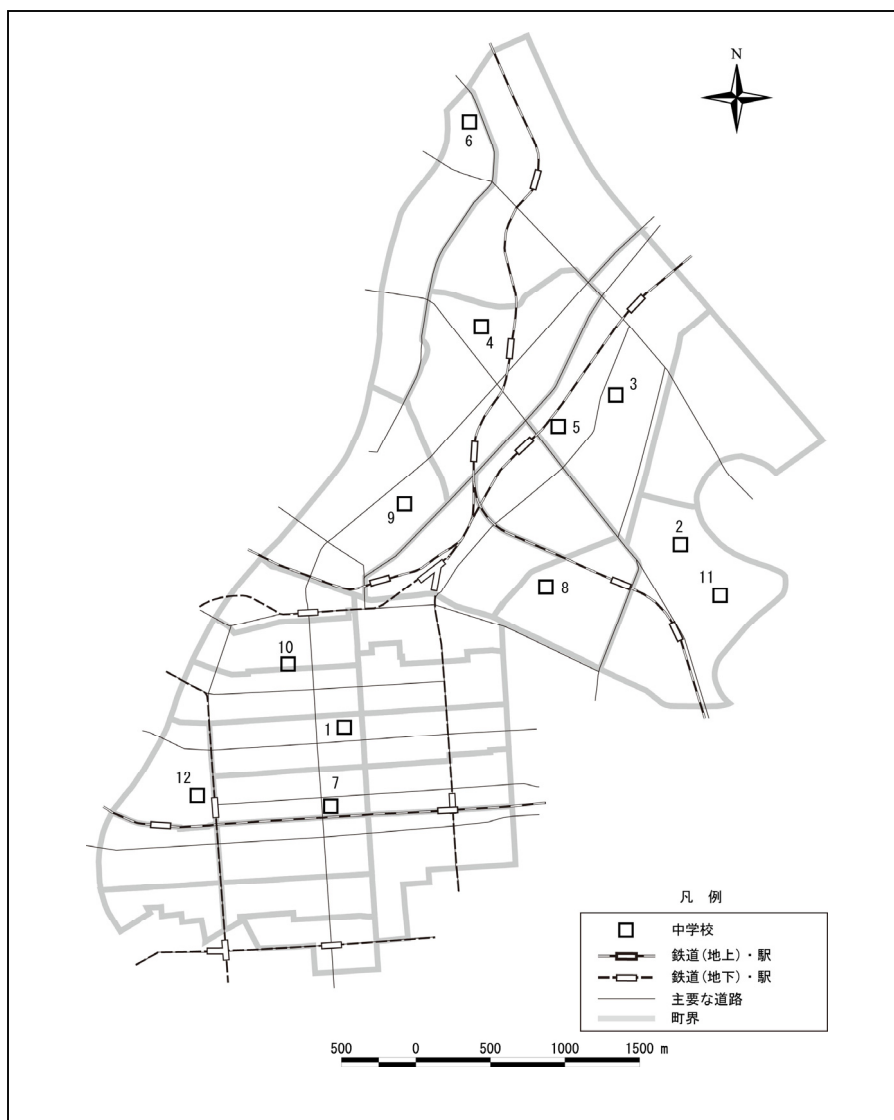


図 中学校の配置状況

注) 平成 25 年 4 月 1 日付で、「向島中学校 (No. 4)」と「鐘淵中学校 (No. 6)」が統合し、旧堤小学校跡地に「桜堤中学校」が開校

④ 維持管理・運営にかかる経費の状況

- 維持管理費は、総額約4億800万円となっています。その内訳をみると、光熱水費が約1億6,600万円（構成比40.6%）で最も高く、空調機の借上等を含むその他維持管理費が約1億円（13.6%）で次いでおり、両者の合計が約2億6,600万円で全体の65.1%を占めています。
- 学校別では、㎡あたり維持管理費では「墨田中学校」が約7,300円で突出しているほか、「本所中学校」が約6,300円でこれに次いでいます。なお、「墨田中学校」では校舎改築に伴う中学校仮校舎借上にかかる費用が計上されています。

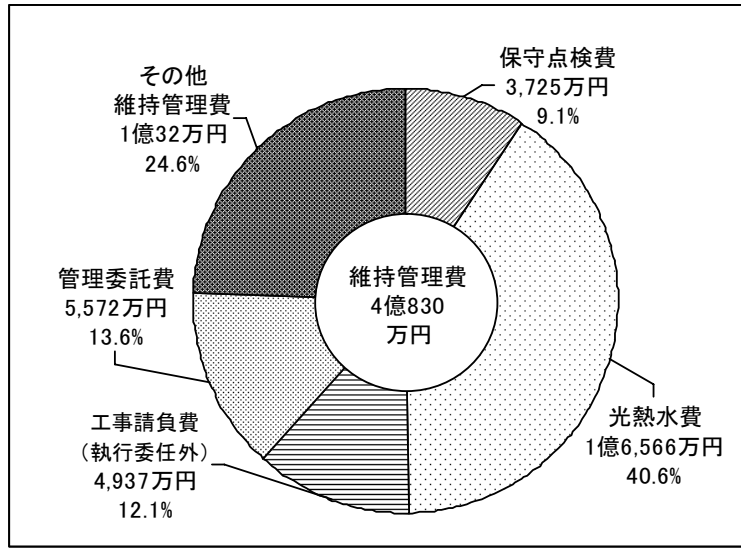


図 維持管理費（総経費）の構成

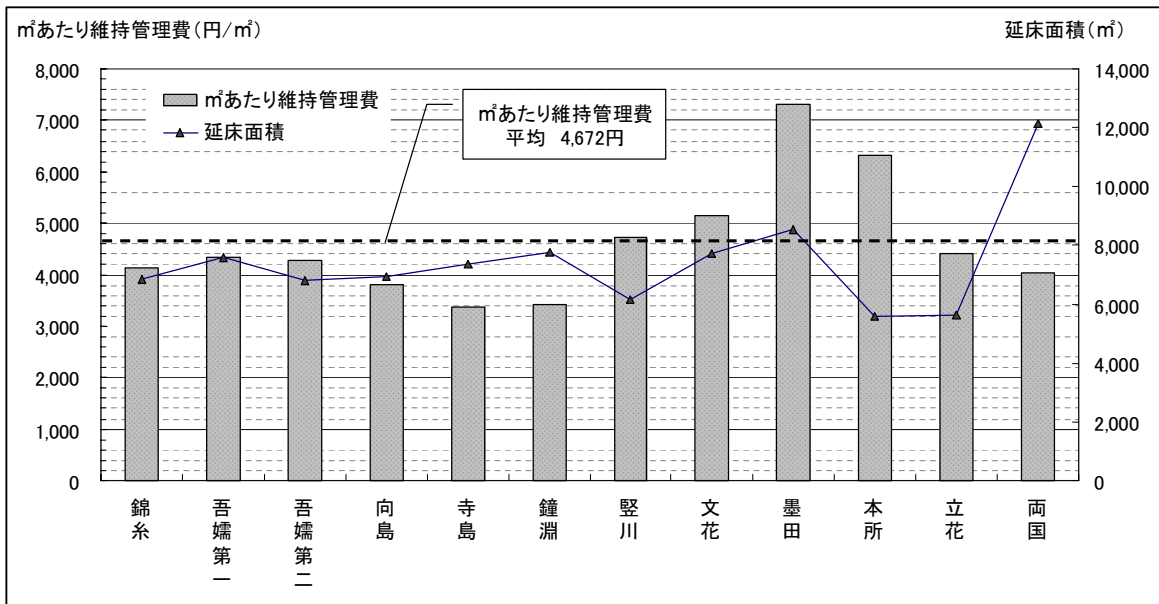


図 ㎡あたり維持管理費

注) ㎡あたり維持管理費の平均額からは、分析・評価の対象外としている「4 向島中学校」「6 鐘淵中学校」は除いている。

3) 分析・評価の方法

「中学校」の分析・評価の指標

	評価項目	評価指標	評価の内容
中学校の分析・評価の指標	＜建物性能＞		
	※中学校は、同一施設内に校舎や屋内運動場、プールといった複数の建物が設置されており、建物により竣工年度や劣化度が異なります。このため、「経過年数」「劣化の度合い」は、延床面積が最も大きい主たる校舎を対象に分析・評価を行います。		
	経過年数 (20点満点)	経過年数	20点:10年未満 15点:10年以上20年未満 10点:20年以上 30年未満 5点:30年以上
	劣化の度合い (20点満点)	劣化度(区全体で みた偏差値)	20点:55以上 15点:50以上55未満 10点:45以上50未満 5点:45未満
	所要の耐震性能 (10点満点)	所要の耐震性能	10点:有り 5点:有り(改修) 0点:無し
	評価ランク (50点満点)	【A】評価点合計40点(50点×80%)以上 【B】30点(50点×60%)以上40点未満 【C】20点(50点×40%)以上30点未満 【D】20点未満	
	＜施設機能＞		
	施設の需要 (40点満点)	生徒数の対前年度 比増減率	20点:2年連続増 10点:減⇒増、増⇒減 5点:2年連続減
		町別の将来人口	施設を中心とする半径500mの区域が含まれる町の平成24年の10～14歳人口(実測値)を100とした場合の平成47年における10～14歳人口(推計値) 20点:100以上 10点:90以上100未満 5点:80以上90未満 0点:80未満
	施設の配置	※分析・評価の対象外	
経費の多寡	※分析・評価の対象外		
評価ランク (40点満点)	【a】評価点合計32点(40点×80%)以上 【b】24点(40点×60%)以上32点未満 【c】16点(40点×40%)以上24点未満 【d】16点未満		
評価区分			
区分1	区分2	区分3	区分4
「建物性能」・「施設機能」ともに評価が低く、建物や機能を含め今後の統合、複合化、整理(廃止)等について検討を要する施設	「建物性能」の評価が低く、他の建物への移転や他施設との複合化等により、建物性能の向上について重点的に検討を要する施設	「施設機能」の評価が低く、運営形態の見直しやコストの改善、他施設との複合化等により、施設機能の向上について重点的に検討を要する施設	適時適切に建物の保全を行いながら、更なる施設サービスの向上を図っていく施設。必要に応じて区分1～3に分類された施設とともに一体的な見直しを行う

(注)「4 向島中学校」と「6 鐘淵中学校」は、平成24年度末をもって桜堤中学校として統合されたため、分析・評価の対象から除外する。

4) 分析・評価結果一覧

施設名	＜建物性能＞					＜施設機能＞					評価結果
	経過年数 (20)	劣化度 (20)	耐震性 (10)	合計 (50)	評価ランク	施設需要 (40)	施設配置 (-)	経費の多寡 (-)	合計 (60)	評価ランク	
1 錦系中学校	5	15	5	25	C	30	-	-	30	b	区分2
2 吾孀第一中学校(※1)	5	15	0	20	C	25	-	-	25	b	区分2
3 吾孀第二中学校(※2)	5	5	0	10	D	15	-	-	15	d	区分1
5 寺島中学校	5	5	5	15	D	20	-	-	20	c	区分1
7 豎川中学校	5	15	5	25	C	40	-	-	40	a	区分2
8 文花中学校	15	15	10	40	A	30	-	-	30	b	区分4
9 墨田中学校	20	20	5	45	A	25	-	-	25	b	区分4
10 本所中学校	5	15	5	25	C	30	-	-	30	b	区分2
11 立花中学校(※1)	10	15	10	35	B	20	-	-	20	c	区分3
12 両国中学校	20	20	10	50	A	30	-	-	30	b	区分4

(※1)「2 吾孀第一中学校」は、平成 26 年に「11 立花中学校」と統合予定

(※2)「3 吾孀第二中学校」は今後改築が行われる予定

【施設機能 (40満点)】	【a】 32点以上	区分2 7 豎川中学校	区分4	
	【b】 24点以上 32点未満	1 錦系中学校 2 吾孀第一中学校 10 本所中学校	8 文花中学校 9 墨田中学校 12 両国中学校	
	【c】 16点以上 24点未満	区分1 5 寺島中学校	区分3 11 立花中学校	
	【d】 16点未満	3 吾孀第二中学校		
	【D】20点未満	【C】20点以上30点未満	【B】30点以上40点未満	【A】40点以上
【建物性能(50満点)】				

検討の方向性(案)

○今後の生徒数の動向を踏まえ、学校の適正配置や空き教室の機能転換等による施設の有効活用に取り組む必要があります。

○維持管理費の約4割を占める光熱水費の削減に取り組む必要があります。

(24) その他学校教育施設

1) 施設概要

施設分類	大分類	教育施設	中分類	学校教育施設	小分類	その他学校教育施設
施設名		運営形態	設置目的・機能			
1	あわの自然学園	直営	区制 30 周年記念事業の1つとして、墨田区立小学校の児童及び生徒が、自然環境の中での宿泊校外学習を行う施設として、栃木県鹿沼市に設置した施設です。			
2	ステップ学級	直営	長期間学校を欠席している児童・生徒に対し学習指導や相談を行っています。			
3	旧隅田小学校	直営	隅田第二小学校との統合により、平成 16 年3月に閉校しました。			
4	旧木下川小学校	直営	校が統合し新たに誕生した「八広小学校」の開校により、平成 15 年3月に閉校しました。			
5	旧区民山の家	直営	施設の老朽化や利用者の減少が顕著なことから、平成 13 年 10 月1日に施設の利用が廃止されています。			

2) 総論

① 建物状況

- 「旧隅田小学校」および「旧木下川小学校」は、所要の耐震性能を満たしていない状況にあります。また、「ステップ学級」を除き、いずれの施設も築後 30 年以上が経過しており、老朽化が顕著となっています。
- 「旧隅田小学校」については劣化度評価に関する偏差値が 19.2 と著しく低い数値となっています。

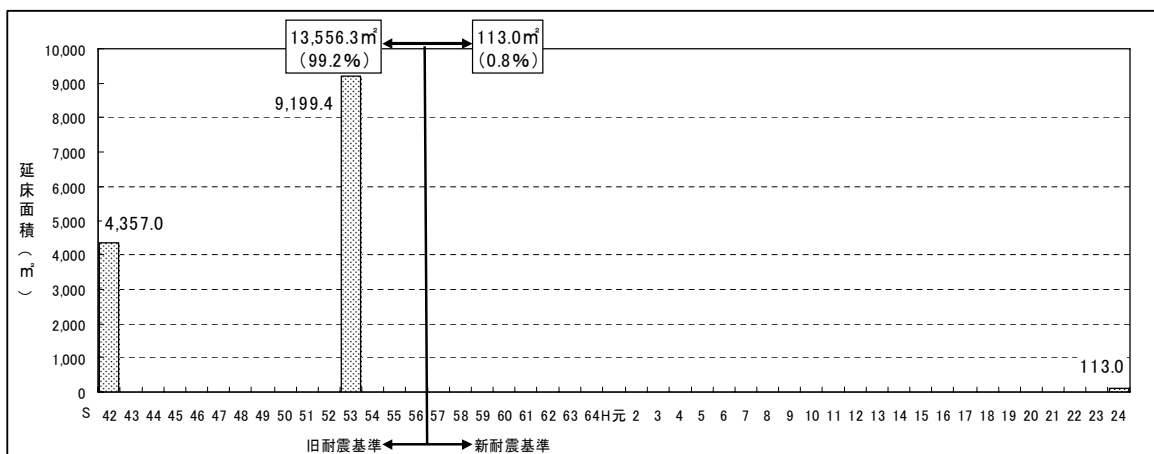


図 竣工年度別の延床面積

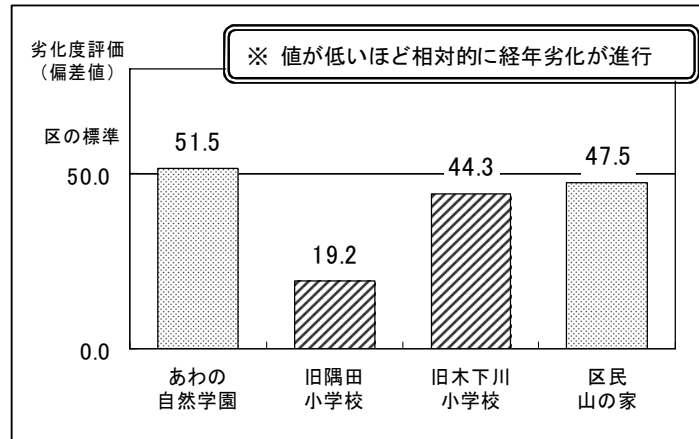


図 劣化度評価の結果

注) 網かけは所要の耐震性能「無し」の施設

② 利用状況

- 「あわの自然学園」は、5月～11月に区立小学校5・6年生の移動教室（宿泊校外学習施設）として利用しているほか、7月～8月の夏季休業中は一般にも開放し、子ども会や各種団体等の利用に供しています。
- 平成19年度以降、移動教室と子ども会等を合わせた「あわの自然学園」の年間延利用者数は、おおむね4,500人前後の横ばい傾向で推移しています。

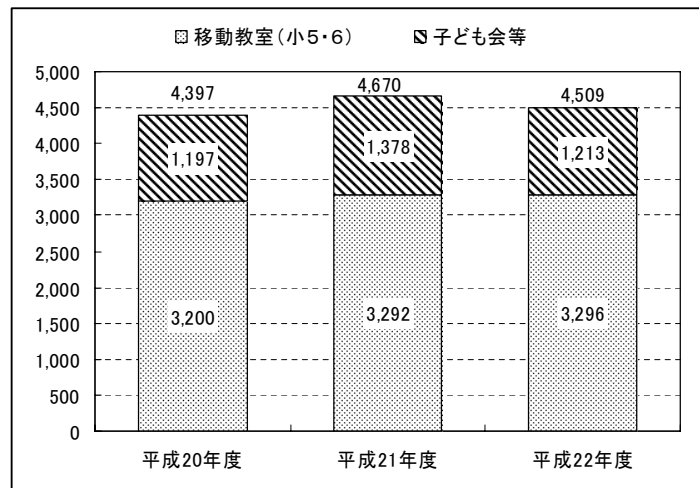


図 「あわの自然学園」の年間延利用者数の推移

③ 施設の配置状況

○「あわの自然学園」と「旧区民山の家」は、栃木県鹿沼市に立地しています。

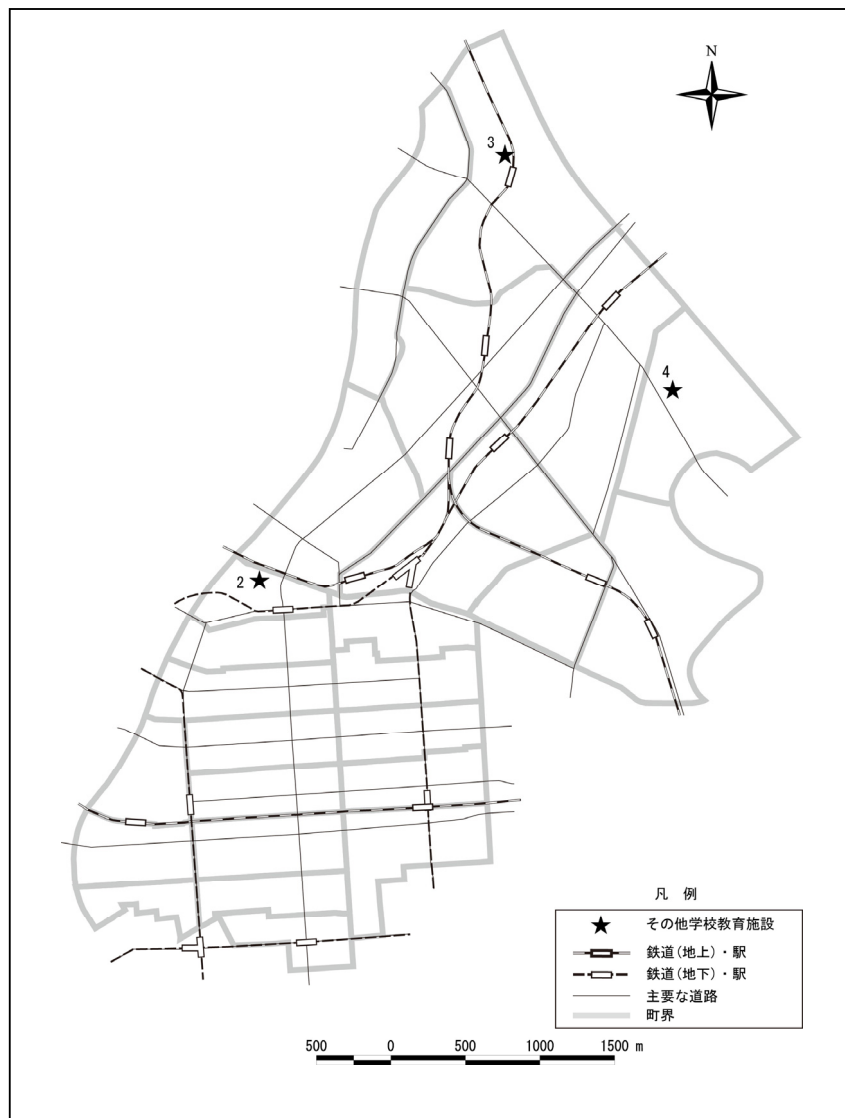


図 その他学校教育施設の配置状況

④ 維持管理・運営にかかる経費の状況

○維持管理費は総額約 3,200 万円であり、このうち光熱水費が約 1,400 万円（構成比 43.5%）で最も高く、保守点検費が約 900 万円（27.8%）でこれに次いでおり、両者の合計が約 2,300 万円で全体の 71.3%を占めています。

○運営費は総額約 2,600 万円であり、このうち人件費が約 2,300 万円で、約 89%を占めています。

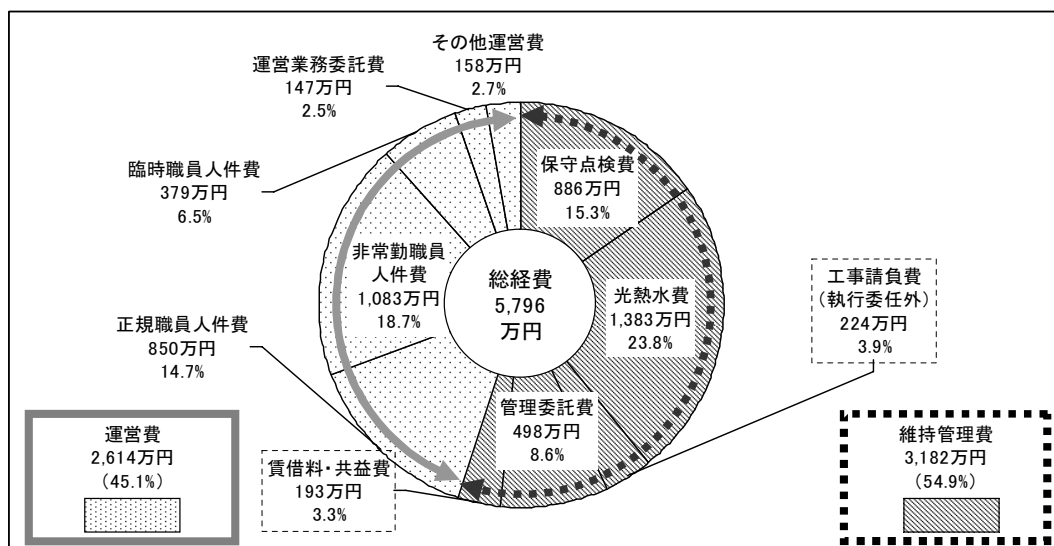


図 総経費の構成

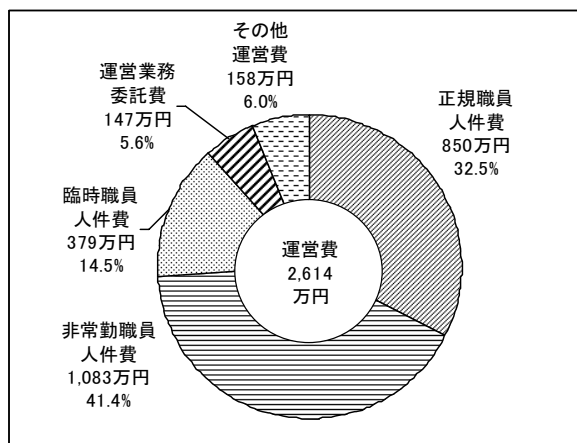


図 運営費の構成

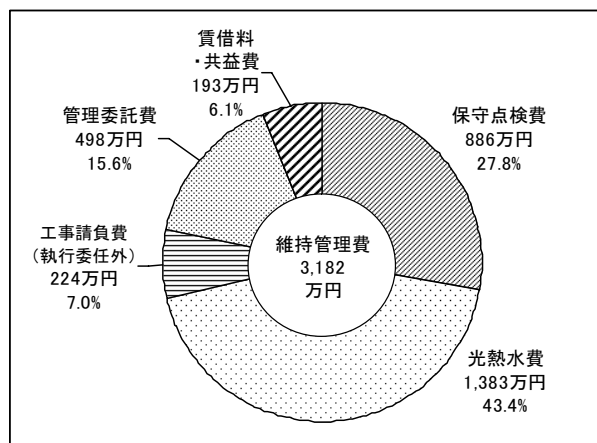


図 維持管理費の構成

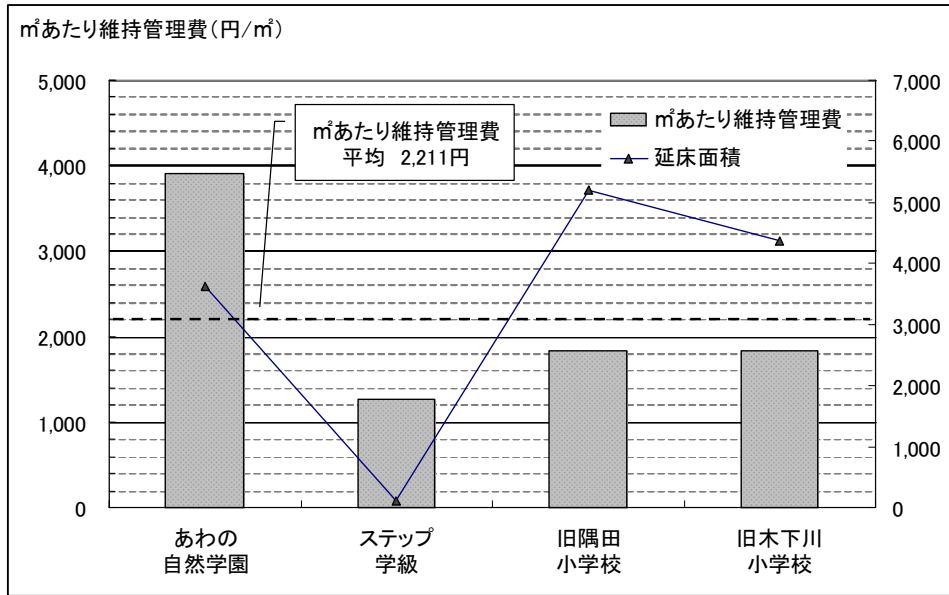


図 ㎡あたり維持管理費

3) 分析・評価の方法

「その他学校教育施設」の分析・評価の指標

	評価項目	評価指標	評価の内容
その他学校教育施設の分析・評価の指標	<建物性能>		
	経過年数 (20点満点)	経過年数	20点:10年未満 15点:10年以上20年未満 10点:20年以上 30年未満 5点:30年以上
	劣化の度合い (20点満点)	劣化度(区全体で みた偏差値)	20点:55以上 15点:50以上55未満 10点:45以上50未満 5点:45未満 ※「2ステップ学級」は民間所有の建物に設置しており、劣化度診断の対象外のため評価点は経過年数の評価点を反映。
	所要の耐震性能 (10点満点)	所要の耐震性能	10点:有り 5点:有り(改修) 0点:無し
	評価ランク (50点満点)	【A】評価点合計40点(50点×80%)以上 【B】30点(50点×60%)以上40点未満 【C】20点(50点×40%)以上30点未満 【D】20点未満	
	<施設機能>		
	施設の需要	※分析・評価の対象外	
	施設の配置	※分析・評価の対象外	
	経費の多寡 (20点満点)	m ² あたりの維持管理費	本カテゴリーにおける平均額との比較 20点:▲10%以上 10点:▲10%未満0%以内 5点:0%超+10%以内 0点:+10%超 ※「6区民山の家」は、現在廃止されており維持管理費がかかっていないため、評価点は20点を計上。
	評価ランク (20点満点)	【a】評価点合計20点 【b】10点 【c】5点 【d】0点	
評価区分			
区分1	区分2	区分3	区分4
「建物性能」・「施設機能」ともに評価が低く、建物や機能を含め今後の統合、複合化、整理(廃止)等について検討を要する施設	「建物性能」の評価が低く、他の建物への移転や他施設との複合化等により、建物性能の向上について重点的に検討を要する施設	「施設機能」の評価が低く、運営形態の見直しやコストの改善、他施設との複合化等により、施設機能の向上について重点的に検討を要する施設	適時適切に建物の保全を行いながら、更なる施設サービスの向上を図っていく施設。必要に応じて区分1～3に分類された施設とともに一体的な見直しを行う

4) 分析・評価結果一覧

施設名	＜建物性能＞					＜施設機能＞					評価結果
	経過年数 (20)	劣化度 (20)	耐震性 (10)	合計 (50)	評価ランク	施設需要 (-)	施設配置 (-)	経費の多寡 (20)	合計 (20)	評価ランク	
1 あわの自然学園	5	15	10	30	B	-	-	0	0	d	区分3
2 ステップ学級	20	20	10	50	A	-	-	20	20	a	区分4
3 旧隅田小学校	5	5	0	10	D	-	-	20	20	a	区分2
4 旧木下川小学校	5	5	0	10	D	-	-	20	20	a	区分2
5 旧区民山の家	5	10	10	25	C	-	-	20	20	a	区分2

【施設機能 (20満点)】	【a】 20点	区分2 3 旧隅田小学校 4 旧木下川小学校	5 旧区民山の家	区分4 2 ステップ学級	
	【b】 10点				
	【c】 5点	区分1		区分3	
	【d】 0点			1 あわの自然学園	
		【D】20点未満	【C】20点以上30点未満	【B】30点以上40点未満	【A】40点以上
【建物性能(50満点)】					

検討の方向性 (案)

- 「1 あわの自然学園」は、運営方法の見直し等により、効果的・効率的な施設運営に取り組む必要があります。
- 「3 旧隅田小学校」「5 旧区民山の家」は、資産の有効活用の観点から、具体的な活用方法の検討に取り組む必要があります。
- 「4 木下川小学校」は、特別養護老人ホーム整備のために活用します。